

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

動き 0歳児から2歳児  
～環境構成により引き出される登攀運動と滑走動作における姿勢制御および敏捷性の向上～

### <テーマの設定理由>

すべり台の上り下りや滑る動きを楽しみながら、乳児が全身を使って遊ぶ姿に着目した。登る・滑るといった動作の中で、体の向きや姿勢をその都度調整しながら動く姿が見られ、身体の使い方を学んでいる様子が見られた。  
また、友だちの様子を感じ取り、ぶつからないように動いたり、自分の番になると素早く行動したりする姿も見られた。こうした経験を通して、動きの切り替えや敏捷性、周囲を意識した行動が育っていると考え、本活動を設定した。

## 2. 活動スケジュール

### ① すべり台の遊び方を知る

活動のはじめに、保育者が子どもたちの前ですべり台の遊び方を実際に見せた。主に、滑る向きや順番について伝え、安全に遊ぶための約束を確認した。

### ② 子どもたちが興味をもって遊ぶ

遊び方を知った子どもたちは、自分からすべり台に挑戦したり、友だちが遊んでいる様子を見て一緒に取り組んだりする姿が見られた。繰り返し遊ぶ中で、登り方や滑り方を自分なりに工夫しながら楽しんでいた。

### ③ 活動のふりかえり

活動後は、リーダー会議および職員会議を通して、子どもたちの姿や関わりについて職員間で共有し、活動の振り返りを行った。

主に6月から3月まで1歳児を中心に室内遊びを展開

## 3. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### ・準備した素材・道具・環境設定

乳児向けのすべり台を用意した。

転倒や衝突の危険がないよう、周囲に十分なスペースを確保した。

順番を待ちながら、繰り返し安心して挑戦できるよう環境を整え、保育者が近くで見守りながら、子ども一人ひとりの動きや気持ちに応じて援助できる配置とした。

#### ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり

すべり台に登る際には、腕の力を使って身体を引き上げようとする姿が見られた。

また、「一緒にやろう？」と友だちを誘い、並んで登ったり、滑った後に顔を見合わせ笑い合ったりするなど、友だちとの関わりを楽しむ様子も見られた。



#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

新しくすべり台を使用する際、はじめは遊び方に戸惑う様子が見られたが、保育者が遊び方を丁寧に伝えることで、子どもたちは安心して活動に取り組むことができた。登る際には自然と腕の力を使い、滑る前には周囲に誰もいないことを確認してから楽しむ姿が見られ、安全意識の芽生えも感じられた。

乳児期からこのような遊びを通して、自分の身体を使って考え、周囲を意識しながら動く経験を積むことの大切さを改めて感じた。今後も、子どもの発達段階に合わせた環境設定を工夫しながら、安心して「動き」を楽しめる活動を継続していきたい。